

ぶどう「紅伊豆」に対する花振るい防止剤の使用法（追補）

（園試大迫試験地）

1. 背景とねらい

ぶどう「紅伊豆」の生産安定を図る上で結実確保が緊急の課題であり、その対策として植物成長調節剤「ピコトクロド液剤（商品名：フラスター液剤）」の使用法について、主に使用時期を中心として平成5年に参考事項として取りまとめた。

その後、従来よりも低濃度での使用法について検討した結果、以下の成果が得られた。

2. 技術の内容

1) 従来の使用法（希釈倍数500倍、散布水量100～150ℓ/10a）を下表の通り改める。

使用方法

栽培条件	希釈倍数	使用時期	散布量	散布方法
露地	① 500倍	展葉7～8枚時	100～150ℓ/10a	動噴 S. S.
	② 1,000倍	〃	300ℓ/10a	
施設	500～800倍	展葉7～8枚時	100～150ℓ/10a	動噴

2) 単剤で使用し、総使用回数は年1回とする。

3) 展着剤は不要。

3. 指導上の留意事項

1) 強樹勢樹に対しては、低濃度での使用では効果が劣る場合があるので、その場合は、効果を安定させるため、希釈倍数500倍、散布水量150ℓ/10aで使用する。

2) その他留意事項は平成5年度指導上の参考事項を参照のこと。

4. 試験成績の概要

表1 新梢伸長抑制効果 (1995)

区	処理時展 葉数(枚)	調査日			(増加率 <sup>1)</sup> )
		6/5	6/15	6/26	
500倍	7.6	45.7	55.3	63.5	(138.9)
800倍	8.0	54.8	69.1	83.3	(152.0)
1,000倍	7.6	53.1	69.7	87.7	(165.2)
無処理	—	44.2	67.7	96.5	(218.3)

注1)6/26新梢長の6/5日に対する割合

2)処理月日：6月5日

3)短梢仕立て

4)開花盛：6月28日

表2 展葉数に及ぼす影響 (枚)

区	1994年							1995年				
	処理時展 葉数(枚)	調査日					増加率 <sup>1)</sup>	処理時展 葉数(枚)	調査日			
		6/2	6/9	6/16	6/23	6/30			6/5	6/15	6/26	増加率 <sup>2)</sup>
500倍	7.0	7.0	8.5	10.6	13.3	15.2	(217)	7.6	7.6	9.6	11.5	(151)
800倍	7.3	7.3	8.5	10.9	13.5	15.3	(210)	8.0	8.0	10.3	12.6	(158)
1,000倍	7.1	7.1	8.4	11.1	13.5	15.6	(220)	7.6	7.6	10.3	12.3	(162)
無処理	-	7.0	8.4	10.5	13.0	15.1	(216)	-	7.1	9.7	12.2	(172)

注1)6/30展葉数の6/2に対する割合 注2)6/26新梢長の6/5に対する割合

表3 花穂長に及ぼす影響 (cm) (1995)

区	処理時展 葉数(枚)	調査日		
		6/5	6/26	(増加率)
500倍	7.6	10.8	15.7	(145.4)
800倍	8.0	11.7	15.6	(133.3)
1,000倍	7.6	13.3	19.1	(143.6)
無処理	-	10.6	18.7	(176.4)

注)処理月日:6月5日

表4 結実状況

区	整形後蕾数(個)			有核果着粒数(個)			無核果着粒数(個)			有核果結実率(%)		
	1994	1995	平均	1994	1995	平均	1994	1995	平均	1994	1995	平均
500倍	122	169	146	18	64	41	3	2	3	15.1	38.4	26.8
800倍	103	170	137	21	69	45	2	3	3	21.0	41.1	31.1
1,000倍	115	149	132	21	55	38	5	2	4	18.5	36.6	27.6
無処理	88	151	120	12	26	19	2	2	2	13.4	17.4	15.4

注)調査日:1994年、6月15日及び10月5日。1995年、6月21日及び7月21日

表5 果実品質への影響

区	1994年(10月5日調査)					1995年(9月26日調査)				
	処理時展 葉数(枚)	房重 (g)	粒重 (g)	糖度 Brix	酸度 (%)	処理時展 葉数(枚)	房重 (g)	粒重 (g)	糖度 Brix	酸度 (%)
500倍	7.0	207.0	10.8	15.2	0.79	7.6	345.2	10.1	18.0	0.59
800倍	7.3	235.5	10.7	16.3	0.65	8.0	330.3	10.6	18.8	0.46
1,000倍	7.1	262.8	10.9	16.3	0.57	7.6	416.7	11.1	16.2	0.64
無処理	-	153.7	11.6	16.7	0.67	-	272.6	10.9	17.2	0.61

表6 S S 散布での効果 (1993、長野中信農試:巨峰)

樹勢	区	散布方法	新梢長(cm)		着粒数		有核果率 (%)
			5/31	7/12	有核	無核	
弱	500倍	動噴:150ℓ/10a	34.5	73.0	42.6	28.9	64.1
	1,000倍	S S:300ℓ/10a	36.3	80.4	42.9	23.2	64.9
	無処理		33.8	82.6	26.3	46.1	36.7
強	500倍	動噴:150ℓ/10a	33.0	66.4	29.7	50.3	37.1
	1,000倍	S S:300ℓ/10a	34.8	87.6	25.9	60.7	29.9
	無処理		34.2	100.2	11.4	62.2	15.5